

SONAERU

備える

■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

NO. 69

もうすぐ梅雨のシーズン。
傘以外の準備はできていますか。



備える。
1990年(平成2年)5月31日 発行
発行所 川崎市
編集所 土木局防災対策室
〒210川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841

日本は、世界でも指折りの雨の多い国で、国土の3分の2は森林でおおわれ、私たちにうるおいを与えてくれています。反面、毎年6月の梅雨の季節や9月の台風シーズンには、おおくの水害を私たちにもたらします。そして、水害の中でも一番恐ろしいのは集中豪雨です。集中豪雨は、私たちの家を



▲達瀬川の決壊(郡山市)

梅雨入り前に

○家の弱いところの補強
・雨戸、テレビのアンテナ、屋根などは大丈夫か点検し、弱いところは補強しておく。
・雨といはこわれてないか、落葉や土砂がたまっていないか点検しておく。
・家の周囲の側溝や排水管は、いつも清掃し、流れをよくしておく。
○非常持出し品の準備
・停電に備え、懐中電灯・ローソク・トランジスタラジオ(予備電池も)

池も)を用意しておく。
・貴重品は、まとめておく。
・非常食・飲料水・医薬品を用意しておく。
○避難場所の確認
・万一避難することを考えて、避難場所、避難ルートを確認しておく。
※避難場所は、主に小、中学校などです。

被害にあいそうなとき

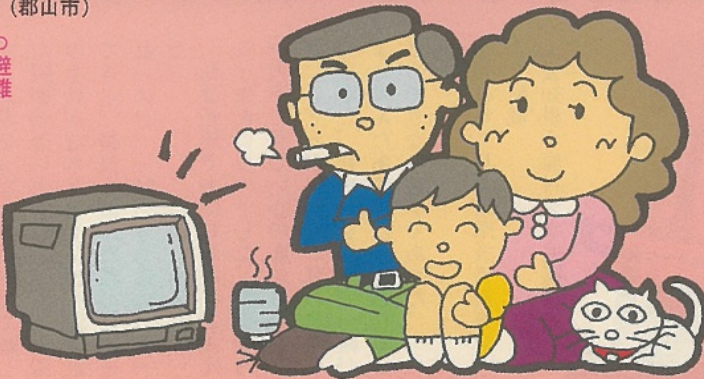
○気象情報に注意
テレビ、ラジオの気象情報に注意する。

大切な財産をいっぺんに水びたしにしないでください。もし、今、集中豪雨が来たら、あなたはどのようにするか。あなたの家の雨対策はできていますか。雨は地震と違ってあらかじめ予報などで知ることができるのです。みなさん雨には常に敏感になり、少しでも被害が小さくなるよう備えておきましょう。

浸水などの被害にあったとき

○家の回りの安全確認
○浸水したところは、水がひいたあと水でよく洗い、消毒する。
※床上浸水の被害があった場合、り災証明書は、各区役所で発行します。

○避難
・電気・ガスなどの元栓を切る。
・履ものは動きやすいものにする。
・荷物は手荷物程度にする。
・棒などで足元を確認し、マンホールやミソなどに落ちないように注意する(マンホールや小川に落ち死亡した例があります)。
・住んでいる所が、がけ崩れ、土砂崩れの危険のある場合は、余裕をもって避難する。



雨のシーズンです 崖崩れ、大丈夫ですか？

●急傾斜地崩壊 危険区域のバト ロールを実施！

川崎市では、建設省主催の「土砂災害防止月間」の一つとして、5月末に急傾斜地崩壊危険区域に指定されている市内61区域のバトロールを市役所関係機関、区役所、消防署、警察署及び神奈川県治水事務所合同で実施しました。

バトロールは、崩壊防止施設の現状、斜面の状況等を調査し、安全確保の推進に努めると同時に地域住民への啓発を行い、行政・住民が一体となった崖崩れ災害防止対策をしています。

斜面状況に注意を！

今年は、春先から雨が続き、斜面にかなりの水が含まれていると思われ、梅雨末期、台風など大雨が降ると崖崩れが心配です。神奈川県と川崎市は、急傾斜地崩壊危険区域の崩壊防止施設の設置等防災対策を推進すると同時に斜面のバトロールを実施していますが、斜面の状況を一番良く知り、異常を一番早く気付く人は、あなたです。



「自分の生命と財産は、自分で守る」を合言葉に裏山の状況に日頃から注意し、おかしいなと思われましたら、区役所総務課又は市役所防災対策室へすぐにご相談ください。

斜面のここに注意しよう！

- ① 斜面に亀裂ができていませんか？
- ② 湧き水の量が最近増えたり濁ったりしていませんか？
- ③ 斜面がふくらんでいませんか？
- ④ 雨水が斜面を流れてできた溝はありませんか？
- ⑤ 雨の日に小石がバラバラ落ちて来ませんか？
- ⑥ 雨の日に斜面の方から大きな音がしませんか？

高津区がけ崩れの防災工事終わる

昨年8月10日、高津区蟹ヶ谷において台風12号の影響を受けた集中豪雨により、がけ崩れが発生し、救助活動中の消防員3名を含めた6名が死亡した事故は、皆さんもまだ記憶に新しいことと思います。神奈川県では、がけ崩れ現場の防災工事を行ない3月29日に無事工事が完了しました。

防災博学

1

「集中豪雨」
集中豪雨は、比較的短い時間に、狭い地域に降る大雨のことです。ふつうに降る強い雨は、1時間に5mmから10mmくらいで、これでもまたたく間に水たまりができてしまいます。ところが、集中豪雨は1時間に100mmを超えるような強い雨が降ることもあります。そのため洪水やがけ崩れなど想像もしなかった大被害をもたらします。集中豪雨が多い地域としては、

関西以西で、なかでも山陰地方や九州西側が有名です。長崎では、昭和57年7月23日に、3時間で330mm降った記録のほか、13時間で1000mmも降ったこともありま。これは、空っぽのプールに1m水がたまる量で、タタミ2枚の面積にドラム缶15本分の水をまいたくらいの量に当たります。川崎市での最近の記録では、昭和60年7月14日の集中豪雨で、時間雨量117mmを記録しています。

たかが雨と侮るなかれ、自然の力を

麻生防災コミュニティー基地完成



麻生防災コミュニティー基地が、麻生区の麻生土木事務所内に3月完成しました。これにより市内全区(川崎区は南部防災センター)に防災コミュニティー基地が計画どおり建設されました。この施設は、現在市内各所に設置されている災害用備蓄倉庫の機能に加えて、情報の受伝達機能や応急医療機能を併せもった施設で、災害時における応急救護活動の拠点となるものです。

体験談

(集中豪雨)



さらばわが家

よく降ると思いつつながら懐中電灯で前の川を見た。12日夜11時頃だ。近年にない大増水で河川は氾濫し荒れ狂っている。内心少々心配で小降りになるのを期待しつつ家を出たり入ったりしていた。しかし、小降りになるどころかますます雨足は激しくなり、雷は鳴る。そのうちに河の水が家へ入りだし履物、瓶などが流れ出した。いかに気丈な私も、これは唯事ではないと直感した。しかし、家は絶対に流れないから何も荷物は持たないでいいから、庭へ出たときにはすでに腰まで水がつかし出し、家財道具もぶかぶかと浮き出し、身動きもできなくなってきた。もうこれ以上で観念して逃げ出す準備をしながら、前の橋を見たらすでに流され、道路は土蔵小屋が裏山の崩壊により押し潰され、その上を濁流が流れていて全然逃げ出すところがなく、右往左往するばかりである。親子3人この家で運命をともにするには、あまりにも情けなく、死んでも死にきれない思いであった。

昭和47年7月「豪雨災害復興誌」より転載
(愛知県小原村大字北篠平)



もう裏山へ逃げるしか方法は無い。その時はもう胸まで水につかっていた。まず最初に娘を濁流の中から、家内と私とで切り立った裏山へ何とか押し上げて木に掴まさせた。次に家内を押し上げて何とか木に掴まった。最後に私が、山へ上がった時は肩のあたりまで水がつかっていた。まだまだ滝のような雨が容赦なく降り続く。たよりの懐中電灯も光が小さくなった。振り返ってわが家を一度見た。家はまだ立っている。